

「第二回富山県国土強靱化地域計画検討委員会」主な意見（概要）

（令和2年3月27日開催）

（対象とするリスク）

・災害が重なって起きる多重災害あるいは複合災害といわれる災害についても、今後、対応が必要になってくる。

（行政機能・防災教育分野）

・今後、災害リスクを理解するという意味合いで、調査や研究をもう少し充実させていてもらいたい。
・小学校の地域を学ぶ教材に、防災の内容を盛り込むことで、授業で使ってもらえることのほか、テストにより自主定着が図れるため、今後の具体的な取組みとして考えてもらいたい。

（産業分野）

・災害時の現場の連絡が上手く取れないように感じている。災害時の現状の情報共有は重要に感じる。

（国土保全・交通物流分野）

・新幹線や空港のそれぞれの項目では記載はあるが、道路も含めた交通ネットワーク全体で取り組むような項目立てを、今後は検討してもらいたい。

（リスクコミュニケーション）

・「地域防災力の基盤強化」の記述に、「地区防災計画を策定する」ことを追記していただきたい。
・富山防災WEBの周知だけでなく、リスクコミュニケーション分野において、多言語化した富山防災WEBの活用といったことが記載されれば、より具体的になる。

（官民連携）

・災害時の応急復旧において、官民連携が重要になってくる。地域計画の官民連携の内容が、関連した防災計画書に反映されて、連携していきたい。

（老朽化対策分野）

・今後、施設の更新だけではなく、気候変動を見込んだものを考えていく必要がある。